

学校を飛び出して、
地元で活躍するオトナを取材しよう！

障がいを持った方も 好きなことを やってもらいたい

ふれ愛の家
副所長サービスマネジメント責任者
中村 武文 さん



池田町で、障がいを持った方を支援する「ふれ愛の家」で働いている中村武文様に、この仕事に就いた理由や、高校生に向けてアドバイスなどをお伺いしました。

Q…この仕事に就いた理由を教えてください

高校生の頃、ボランティアでサンビレッジに行って高齢者の介護をしていました。その時に、「お手伝いをする」と「ありがとう」と言われて、自分が役に立っている感じがありません。自分が役には立っていません。その時、自分は福祉のしごとがあつていいんだな、と感じたので福祉関係の仕事につきました。

Q…この仕事につくまでの道のりを教えてください。

高校のボランティアをきっかけに、福祉の専門学校へ進学し、就職しました。そこでは利用者さんに一般常識やマナー等について、注意ばかりしなくてはいけなかったのです。

でもそれは、僕にとつてどつちでもよいことだったので、「幸せになるための福祉なのに、なんで沢山注意しなくちゃならないのだろう」と思っていました。注意ばかりが嫌になり、海外に飛び出して、アジアを中心に2年間かけて海外を回ってきました。

違う文化には、僕の理解を超える人たちが沢山いました。その人たちとかわる中で、「どんな生き方でも生きていけること」や、「困った時は必ず救世主が現れること」、「起きる事は全て自分に必要なこと」と言う

出て逃げました。

例えば、以前の職場ではいろんな事に気が付く年配の女性が苦手でした。何故なら、利用者さんの支援をしようとする際、僕は気が付かないことも、年配の女性は子育てや家庭を守る経験値から、いろんなことに気が付くことができます。

自分の気が付いていないところをバンバン言われて悔しかったです。これに関しては逃げ出しても、帰国して、ここに就職したら以前より多くの年配の女性がいました。

でも、今はとても頼りにしています。どうしても向かい合うべき自分の課題は、ちゃんと形を変えて返ってきます。

だから、その環境がどうしても苦しいときは環境を変えてみるのも一つの手だと思っています。また、別の形で乗り越えられるかもしれないから。

Q…今の高校生にアドバイスをください

「やりたいことをやる」が一番だと思う。でも、やりたいことをやる時は自分に敏感になつたほうがいいと思います。

例えばネットサーフィンやゲームとか条件反射的に脳が喜んでくれるだけのものがあります。何かをやる選択をした時に、それは本当に心から喜んでくれるのか、それとも反射的に脳が選んでいるだけなのか、自分で見分けなさいといけません。

単に周りから嫌われないためや、周りがこ

事がわかりました。「生き方には幅があつても、全ての人間は幸せになるために生きています。」とわかつた時に、今の仕事に対しても違う感覚ができました。

旅を終えて日本に帰ってきたときに、「幸せになることは誰でもできるんだ。僕は障がい者の方たちの幸せを支援すればいいんだ。」ということに気が付き、今はそれを実践しています。



Q…利用者さんと関わる中で気を付けていることはありますか

自分の価値観をあまり持ち込まないことです。利用者さんが何かやろうとしている時に反射的にダメって言うてしまうこともありません。そういうことがないように、その行動の

う言っているからという理由でやっていないかを注意深く考えてほしい。そして、自分をしっかりと見つめ、本当に心が喜ぶことをやるのがいいと思います。



【感想】

今回、中村様のお話しを聞いて中村様は旅をする中で幸せについて学んだことや今までの経験をお仕事に生かしていることかよくわかりました。私も将来人と接するお仕事をしたいと考えているので、これからいろんなことに挑戦してたくさん経験して中村さんみたいに将来の役に立てるように努力していきたいと思いました。



Q…今までの苦しかったことはどう乗り越えましたか

苦しみは乗り越えないといけないことと、逃げていいことがあると思う。実際僕は旅に

裏にはその人がどう感じていて、本当はどう思っているのかを自分の先入観を消して、まっさらな状態で観るようにしています。

でも場合によっては、自分を丸出しにしてぶつかり合うこともあります。

例えば、利用者さんが不快な行動をとった時は、「僕は、その行動は不快に感じる」と正直に伝えます。何か一緒に作品を作ったりするときや、一緒に歌うときは、「僕はこの感じでいくけどみんなはどうする？」みたいな感じで自分を出していくときもあります。